



# ARiSE

## AI for Science 革新的研究推進事業

AI to Redesign Scientific Exploration; ARiSE

### 「戦略ターゲット型」募集説明会

2026年5月15日(金)

10:30~12:00



科学を支え、未来へつなぐ

## 科学技術振興機構

(研究プロジェクト推進部)

# ARiSE「戦略ターゲット型」募集説明会の内容



1. 背景・目的
2. 本事業の概要と特徴
3. 本事業の運営体制
4. 提案対象・研究費・採択件数  
(戦略ターゲット型、国際・融合型)
5. 国際連携・計算資源の利用
6. 募集・選考のスケジュール
7. 応募要件
8. 重複応募の制限
9. 提案様式
10. 選考基準
11. 研究データの取り扱い
12. 研究セキュリティの確保
13. e-Radによる応募について

# 本事業特有のキーワード



事業統括 (PD)	プログラムディレクターとして本事業全体の運営等を取りまとめる者
推進統括 (PO)	プログラムオフィサーとして本事業で担当する研究タイプの運営等を担う者
アドバイザー (AD)	推進統括に助言をする有識者
研究開発代表者	研究開発課題の代表者。提案に際しての代表者としてe-Radに登録する者
共同研究開発代表者	研究開発課題の代表者と共同で提案し、採択後は研究開発代表者と同等の責務を担う者。ただし提案に際しては共同提案者（主たる共同研究者）としてe-Radに登録してください
共同代表者	上記の研究開発代表者と共同研究開発代表者をまとめた総称。 ※本事業では、共同代表者による提案を募集します
分担グループ	共同代表者と異なる研究機関に所属する研究者等からなるグループ
研究開発分担者	分担グループを代表する者
国際連携パートナー	研究開発課題に参画する、または研究開発課題を共同で推進する海外研究機関に所属する研究者、かつ自国で研究開発を推進できる研究体制および研究費を確保している者
民間連携パートナー	研究開発課題に参画する、または研究開発課題を共同で推進する国内外の民間企業に所属する者、かつJSTからの研究費配賦を受けない者
研究担当者	JSTと委託研究契約を締結する研究機関でその委託研究を中心的に行う者。研究開発代表者、共同研究開発代表者、研究開発分担者が該当
研究参加者	研究開発課題に参加する者全て
AI研究者	AI（数理・システム開発も含む）を専門とする研究者
ドメイン研究者	AIの活用先の研究分野の研究者

## 背景・目的

### AIの進展による科学研究の変革

AIの急速な進展により、AIは、研究力の生産性・効率性を飛躍的に向上させるのみならず、仮説生成、実験設計、解析、知識統合といった研究プロセスのあらゆる段階に深く関与し、科学研究の在り方そのものを変革しつつあり、あらゆる分野の研究活動を根底から変え得るゲームチェンジャーとなっています。

### 「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」の策定（文部科学省 令和8年3月）

我が国の強みを最大限に活かした AI for Scienceの先導的実装を通じて、「科学の再興」を実現し、国際競争力の確保・強化を図ることを目的に、AI for Scienceを国家戦略として体系的に推進するための基本的な方向性が示されました。

### AI for Science革新的研究推進事業 (ARiSE)



戦略方針に定められた具体的アクションを先導するフラグシップ事業として、我が国の強みを最大限に活かせる戦略ターゲットへの集中投資による世界を先導する科学研究成果の創出及び世界トップレベルの研究機関・研究者との戦略的な国際連携等を推進します。

## AI for Scienceによる研究プロセスの革新

## 本事業の概要と特徴

【事業概要】 本事業では、AIを活用することで研究プロセスへの変革をもたらすことが可能な、**科学基盤モデル、AIエージェント、次世代AI駆動ラボシステム**など、**革新的な基盤技術の創出**に取り組むとともに、**AI for Scienceの国際ネットワークの構築**により、**我が国のAI for Scienceの加速・強化**を目指します。

【予算総額】 **320億円**（基金）

【研究期間】 **約2.5年間**（令和8年10月以降～令和11年3月末）

### 【5つの取組（特徴）】

① **AI研究者とドメイン研究者による共同提案（必須）**

➡ AI研究者とドメイン研究者が「共同代表者」として研究開発提案から実施までの共同運営

② **計算資源の利用**

➡ 研究開発課題の実施に際して必要な計算資源利用計画を提案時に作成

③ **国際連携の推進**

➡ 研究力の高い同盟国・同志国等との戦略的な国際連携を推奨

④ **研究データの取り扱い**

➡ オープン・アンド・クローズ戦略の下で研究データの管理・利活用を推進

⑤ **研究セキュリティの確保**

➡ 本事業は特定研究開発プログラムであるため、評価者・被評価者の双方に対して、選考に際してセキュリティ対応を実施

○ AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針：[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shinkou/077/aifors\\_strategy.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/077/aifors_strategy.html)

○ ARiSEの基本方針：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kaihatu/jouhou/mext\\_03502.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/mext_03502.html)

# ARiSEの位置づけと2つの研究タイプ



予算総額 320億円

**JST**  
**AI to Redesign Scientific Exploration (ARiSE)**  
 ➔ 世界を先導する科学研究成果の創出

予算総額 50億円

文部科学省  
**Supporting Pioneering Research through AI for 1,000 Discovery challenge (SPReAD)**  
 ➔ AI for Scienceの波及・振興による科学研究力の底上げ

SPReADの公募URL: [https://www.mext.go.jp/aifors\\_spread/](https://www.mext.go.jp/aifors_spread/)

研究タイプ	狙い等	期間・予算規模
①戦略ターゲット型※1	世界を先導する科学研究成果の創出 (現在進行中の研究のさらなる加速)	R8~R10年度(約2.5年) 総額10~30億円※2
②国際・融合型	世界を先導する科学研究成果の創出 (国際的なトップリーグへの参画)	R8~R10年度(約2.5年) 総額2億円※3

※1 戦略ターゲット型では、既に準備、試行を開始している取組を対象とします。詳細については、公募要領「2.1.1 戦略ターゲット型の概要」をご確認ください。  
 ※2 研究費(上限額)は、直接経費と間接経費(直接経費の30%が上限)の合算です。  
 ※3 研究費は、原則として2億円(間接経費含む)です。ただし、提案する研究開発課題の目標達成に向けて真に必要な場合は提案時点から、予算額の必要性和妥当性を示していただくことで、最大6.5億円(通期;2年半以内、間接経費含む)を上限に提案することも可能とします。

# 本事業の運営体制



PD (事業統括)  
**青木 孝文**  
(東北大学 理事・副学長)



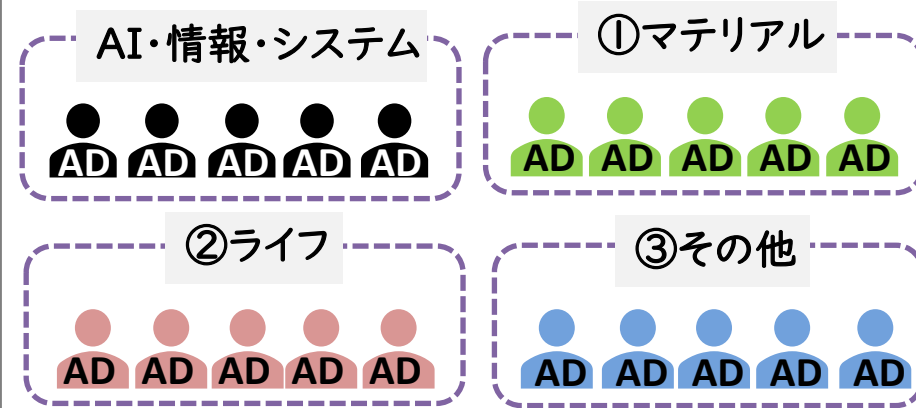
戦略ターゲット型 PO (推進統括)  
**黒橋 禎夫**  
(国立情報学研究所 所長)



国際・融合型 PO (推進統括)  
**上田 修功**  
(理化学研究所 革新知能統合研究センター  
副センター長)

## アドバイザー (AD) ※

※ 選考結果と合わせて公開予定



⇒ 応募された提案に基づき、**POがADの協力を得て、書類選考および面接選考を行い、採択課題を決定します。**

# 戦略ターゲット型の提案対象・研究費・採択予定課題数



提案対象※1	研究費上限 (間接経費含む)※2	採択予定 課題数
<p><b>T1-1「戦略ターゲット1-1」:</b> 推論に革新をもたらすマテリアル科学基盤モデル及びAIエージェント群並びにそれらの国際ベンチマークを開発するとともに、終了後も継続的に必要となる計算・実験データを蓄積できる体制の構築及び資金確保を実現する。</p>	<p>総額<b>30億円</b> (直接経費: 約23億円)</p>	<p><b>1件程度</b></p>
<p><b>T1-2「戦略ターゲット1-2」:</b> マテリアル科学基盤モデル、AIエージェント群、オーケストレーションソフトウェア、先端研究機器など要素技術を統合し、人とAIが共創して、推論、計画、自律実験、レポート作成までを可能とする、AI駆動マテリアル開発システムの国際ベンチマークの開発及び概念実証を行い、民間投資を獲得する。</p>	<p>総額<b>30億円</b> (直接経費: 約23億円程度)</p>	<p><b>1件程度</b></p>
<p><b>T1-3「戦略ターゲット1-3」:</b> 特定材料に係るAIモデル及びAIエージェント群並びにそれらの国際ベンチマークを開発するとともに、実際に革新的なマテリアル候補の試作に挑戦し、終了後も開発に必要な資金確保を実現する。</p>	<p>総額<b>10億円</b> (直接経費: 約7.6億円程度)</p>	<p><b>4件程度</b></p>
<p><b>T2「戦略ターゲット2」:</b> 将来、仮想細胞・生体モデルや、植物、動物、ヒト・臓器等の“デジタルツインモデル”を実現し、高精度かつ高効率なバイオ製品開発、創薬等において我が国が国際競争力を確保できるよう、我が国の強みを活かしつつ、大規模なデータの取得やAI-readyデータの整備を通じて、3年後までに、高機能なバイオ製品や創薬の高効率設計に貢献するバイオ生成基盤モデルを開発する。</p>	<p>総額<b>20億円</b> (直接経費: 約15.3億円)</p>	<p><b>3~4件程度</b></p>
<p><b>T3「戦略ターゲット3」:</b> リアルタイムでのシミュレーションも可能とする物理法則に基づくAI駆動デジタルツインモデルの実現や、新規性の高い研究を探索的に行うシステムの開発等を通じた科学研究の新しい方法論の提唱等において、我が国が国際競争力を確保できるよう、3年後までに、我が国が世界に誇る最先端大型研究施設・研究装置や研究基盤の活用を通じた、大量・高品質データ産出や仮説検証・実験の自動化・自律化を実現する、世界をリードするAIエージェント群やAI基盤モデルを開発・実証する。</p>	<p>総額<b>20億円</b> (直接経費: 約15.3億円)</p>	<p><b>1~2件程度</b></p>

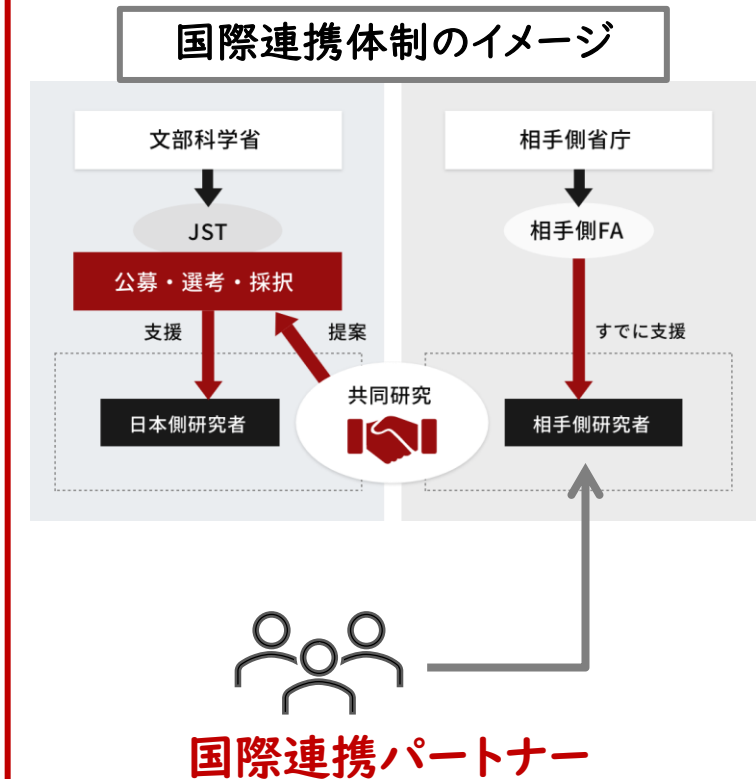
※1 戦略ターゲット型では、既に準備、試行を開始している取組を対象とします。詳細については、公募要領「2.1.1 戦略ターゲット型の概要」をご確認ください。

※2 研究費(上限額)は、直接経費と間接経費(直接経費の30%が上限)の合算です。

# 国際連携体制について

## 【ポイント】

- 本事業では、**AI for Science (またはAI in Science)**を推進している国外の研究者ら（国際連携パートナー）と連携する研究開発課題も対象となります。
- 国際連携パートナーは自国で政府機関等から研究支援を受けているなど、**JSTからの研究費配賦を必要としないことが前提**です。
- 国際連携パートナーと共同代表者等（研究開発分担者を含む）が共同で研究開発を行う際は、共同代表者の所属機関とJSTとの間の委託研究契約書に反しない範囲で、**国際連携パートナーの所属機関と共同代表者等の所属機関との間で国際共同研究契約または同等の合意文書を機関の責任で締結**してください。
- 戦略ターゲット型の選考においては、**国際連携体制の要否の理由（国際戦略）が明確かつ適切であり、提案内容の遂行に最適な実施体制を構築しているか**を審査します。



## 計算資源の利用について

### 【ポイント】

- 研究開発課題を実現するために、**理化学研究所や大学・公的研究機関、民間企業等が提供する計算資源を利用することが可能です。**
- 計算資源をどの程度必要とするか、その**計算資源利用計画を提案時に作成していただきます。**
- **理化学研究所が提供する (AI4Sマシン (仮)) ※を利用する場合には、本事業で使用する全体の計算資源量の確保の観点から、理化学研究所の計算資源管理を担当する関係者が提案書類の一部を確認することがあります。**
- 提案時点で計算資源の利用の要否が明らかでない場合、提案様式4-1において要否を判断できる時期 (見込み可) を記載してください。
- 計算資源の利用が見込まれない場合は、研究開発ターゲットとの関係を含めてその理由を提案様式4-1に記載してください。
- **計算資源利用の要否だけで採否を判断することはありません。**

※ 理化学研究所の計算資源の利用に際しての詳細な情報は別添「理化学研究所の計算資源利用について」をご参照ください。

# 本事業の体制

文科省 AI for Science推進委員会

戦略ターゲット型  
PO (推進統括)

PD (事業統括)

国際・融合型

PO (推進統括)

事業運営委員会

アドバイザー (AD) 群

AI・情報・システム

①マテリアル

②ライフ

③その他

研究開発体制の例

提案者

共同代表者



共同代表者



共同代表者



共同代表者

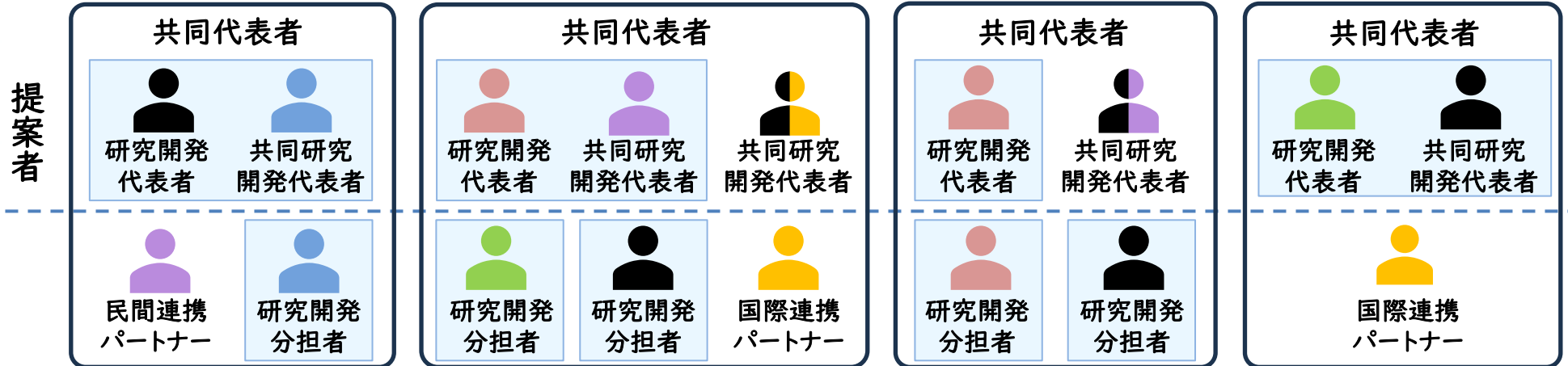


 : AI研究者  
 : ドメイン研究者  
 : 民間連携パートナー  
 : 国際連携パートナー  
 : 民間連携パートナー (AI研究者)  
 : 国際連携パートナー (AI研究者)  
 : 本事業の研究費配賦先

# 本事業の研究開発体制の具体例

本事業では、AI研究者とドメイン研究者が「共同代表者（2名ないし3名）」として、提案時に共通の「問い」を設定して、その問いを解決するために必要な研究開発計画および体制を提案する必要があります。

研究開発体制の例（共同代表者及び研究機関等の要件を満たせば、例示以外の研究開発体制も可能です。）



## ケース1: 共同代表者2名

AI研究者の研究開発代表者、ドメイン研究者の共同研究開発代表者の2名による提案。ドメイン研究者の研究開発分担者（JSTからの研究費配賦あり）と、民間連携パートナー（JSTからの研究費配賦なし）が参画。

## ケース2: 共同代表者3名

ドメイン研究者の研究開発代表者、民間連携パートナーの共同研究開発代表者（JSTからの研究費配賦あり）、国際連携パートナー（AI研究者）の共同研究開発代表者（JSTからの研究費配賦なし）の3名による提案。ドメイン研究者とAI研究者の研究開発分担者（JSTからの研究費配賦あり）、国際連携パートナー（JSTからの研究費配賦なし）が参画。

## ケース3: 共同代表者2名

ドメイン研究者の研究開発代表者、民間連携パートナー（AI研究者）の共同研究開発代表者の2名による提案。ドメイン研究者とAI研究者の研究開発分担者（JSTからの研究費配賦あり）が参画。

## ケース4: 共同代表者2名

ドメイン研究者の研究開発代表者、AI研究者の共同研究開発代表者の2名による提案。国際連携パートナー（JSTからの研究費配賦なし）が参画。

 : AI研究者     
  : 民間連携パートナー     
  : 民間連携パートナー (AI研究者)     
  : 本事業の研究費配賦先  
 : ドメイン研究者     
  : 国際連携パートナー     
  : 国際連携パートナー (AI研究者)

# 募集・選考のスケジュール

内容	日時
提案の意向表明の締切【任意】 (アンケートフォームによる受付)	5月25日(月) 午前12時(正午)
提案の受付締切 (府省共通研究開発管理システム [e-Rad]による受付期限日時)	6月30日(火) 午前12時(正午) <u>&lt;厳守&gt;</u>
書類選考期間・書類選考会の開催	7月上旬～8月上旬
書類選考結果の通知・e-Rad登録	8月上旬～8月中旬
面接選考会の開催	8月中旬～9月上旬 ※オンラインで実施予定
選定課題の通知・発表	9月中旬～9月下旬
研究開発課題の開始	10月以降

- 提案者の基本情報に加えて、提案する研究分野および提案を評価しうる有識者の推薦を事前に提出いただくことで、効果的かつ効率的な選考を行うために実施します。  
提案の意向表明の有無で提案の可否を判断するものではありませんが、適切な選考を速やかに行うために、提案の意向表明にご協力ください。

採択候補課題に対する研究セキュリティに関する確認を実施します。

**募集締切までに、e-Radを通じた応募手続きが完了していない提案については、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。**

- 提案者の基本情報に加えて、**提案する研究分野および提案を評価しうる有識者の推薦を事前に提出いただくことで、効果的かつ効率的な選考**を行うために実施します。提案の意向表明の有無で提案の可否を判断するものではありませんが、**適切な選考を速やかに行うために、提案の意向表明にご協力ください。**

## 【アンケートの内容】

1. 研究開発代表者/PI **[必須]**
2. 共同研究開発代表者/Co-PI (1~2名) **[必須]**
3. 研究タイプおよび戦略ターゲットの選択 **[必須]**
4. 研究分野 (国際・融合型: **[必須]**)  
自然科学一般(数学、物理学など)、エネルギー、ライフサイエンス、社会基盤、ナノテク・技術、情報通信、フロンティア、環境、人文・社会、ものづくり技術、その他
5. 研究キーワード(5つまで) **[必須]**
6. 国際連携パートナー候補(任意)
7. 民間連携パートナー候補(任意)
8. 評価者の推薦(5人まで、任意)
9. 利害関係者の申告(5人まで、任意)
10. その他連絡事項等(任意)

# 応募要件

## 共同代表者（研究開発代表者および共同研究開発代表者）の要件

1. 全研究開発期間を通じ、**研究チームの責任者として研究開発課題全体の責務を負うことができる研究者**であること。
2. 所属研究機関において**研究倫理教育に関するプログラムを予め修了**していること。または、**JSTが提供する教育プログラムを応募締切までに修了**していること。
3. 応募にあたって、以下の4点を誓約できること。
  - ① 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」の内容を理解し、遵守すること。
  - ② 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（令和3年2月1日改正）」の内容を理解し、遵守すること。
  - ③ 研究開発提案が採択された場合、研究参加者（共同代表者、研究開発分担者、研究員等、研究補助者）は、研究活動の不正行為（捏造、改ざん及び盗用）並びに研究費の不正使用を行わないこと。
  - ④ 本事業の提案書に記載している過去の研究成果において、研究活動の不正行為は行われていないこと。
4. 共同代表者のうち**少なくとも研究開発代表者については、国内の研究機関に所属して当該研究機関において研究開発を実施する体制を取る**こと（研究開発代表者の国籍は問いません）。

## 研究機関の責務

研究機関は、研究開発を実施する上で、委託研究費の原資が公的資金であることを十分認識し、関係する法令等を遵守するとともに、研究開発を効率的に実施するよう努めなければなりません。

- 募集要領「4.6 研究機関の責務等」に掲げられた責務が果たせること。
- 応募に際しては、**研究開発の実施を予定している全ての研究機関から事前承諾を確実に得てください。**

## 重複応募の制限について

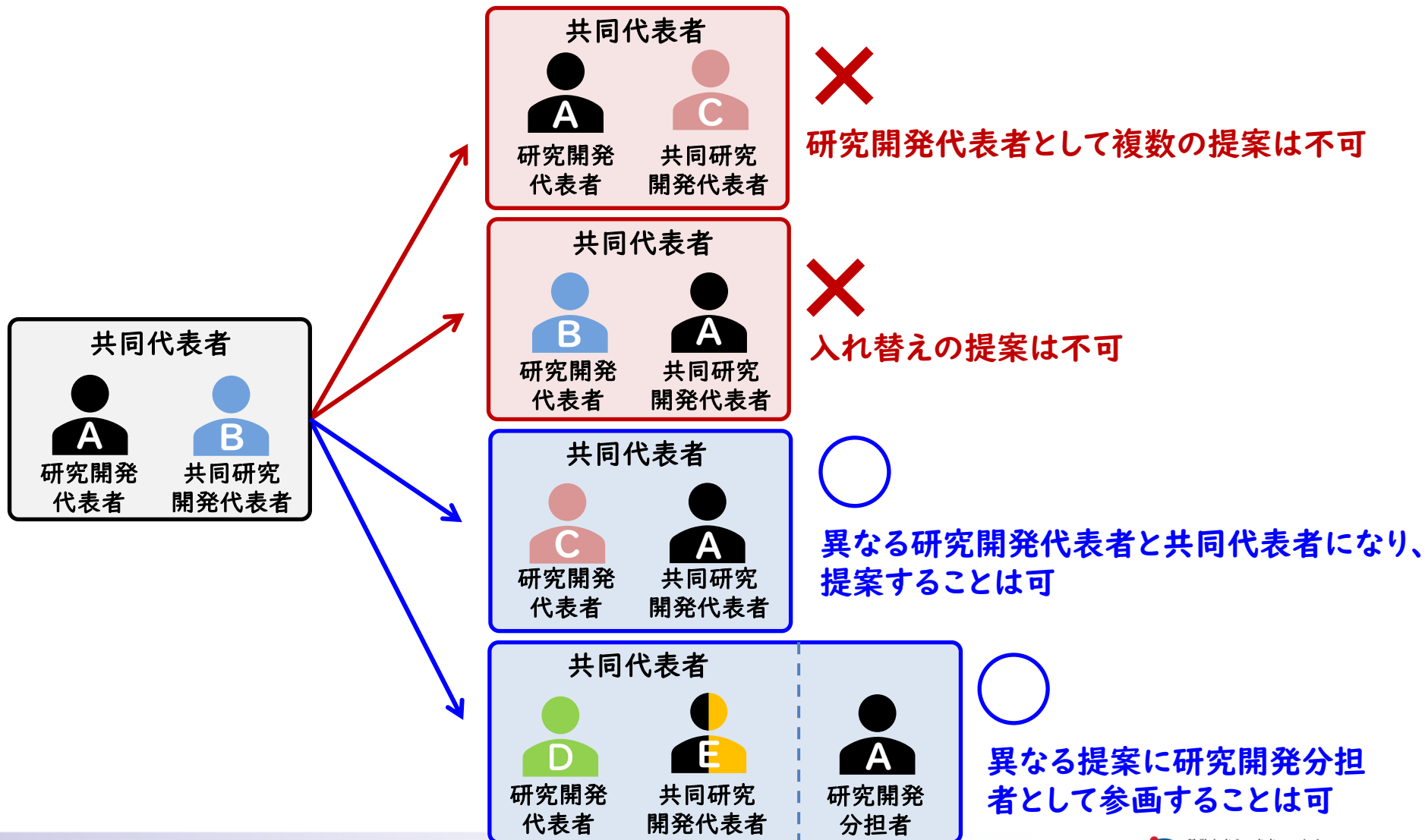
1. 研究開発代表者として応募できるのは**本事業全体で 1 件のみ**です。
2. SPReADの研究代表者が同時に**ARISEの共同代表者を務めることはできません**。
3. **その他の競争的研究費制度との間に重複応募の制限はありません**。
4. 提案において、共同研究開発代表者および研究開発分担者として研究開発に参画する場合は以下の制限があります。
  - ・研究開発代表者と共同研究開発代表者が**互いに入れ替わって、複数件の応募をすることはできません**。
  - ・研究開発代表者または共同研究開発代表者として応募し、かつ他の提案において共同研究開発代表者または研究開発分担者として応募し、両方の研究開発課題が採択された場合は、**研究開発内容や規模等を勘案した上で、POの判断により、研究費の減額や、当該研究者が参画する研究開発課題のうち一部の課題の参画を認めない等の調整を行うことがあります**。

〈重複制限〉	研究開発代表者	共同研究開発代表者	研究開発分担者
研究開発代表者	×	○※ (ただし入替は×)	○※ (ただし入替は×)
共同研究開発代表者	○※ (ただし入替は×)	○※	○※
研究開発分担者	○※ (ただし入替は×)	○※	○※

※ 複数件採択される場合は、POの判断により、研究費の減額や、当該研究者が参画する研究開発課題のうち一部の課題の参画を認めない等の調整を行うことがあります。

# 重複応募制限の参考例（共同代表者が2名の場合）

例：研究者Aが研究開発代表者として提案する場合



# 提案様式

様式番号	書類名 (全タイプ共通)	ページ数	
		戦略ターゲット型	国際・融合型
様式 1	基本事項	2ページ以内	
様式 2	構想※1	4ページ以内	
様式 3	提案の独創性・優位性	2ページ以内	1ページ以内
様式 4-1	目標・実施計画※2	8ページ以内	5ページ以内
様式 4-2	予算計画	制限なし	
様式 5	実施体制 (全体)	制限なし	
様式 6-1	研究・活動実績 (研究開発代表者)	2ページ以内	
様式 6-2	研究・活動実績 (共同研究開発代表者)	2ページ以内	
様式 7	他制度での助成等の有無	制限なし	
様式 8	特記事項	2ページ以内	
[別紙1]	データマネジメントプラン	制限なし	
[別紙2]	計算資源利用計画	全体様式3ページ+付票 (必要に応じて複製可)	

※1 戦略ターゲット型においては、科学基盤モデル等の創出数を基本的なアウトプット指標としつつ、早期実装・ビジネス化に向けた取組状況 (ユースケースの創出等) の観点においても評価を行います。そのため、提案する研究開発課題にて想定される研究開発期間終了後の展開と、研究開発期間終了時に目指す具体的な達成目標 (KPI) を明確に記載してください。

※2 目標・実施計画には、データマネジメントプランおよび計算資源利用計画の記載が求められます。

## 選考基準

<b>a. 目的・趣旨</b>	事業の趣旨に合致し、事業が目指す成果の創出が期待されること。
<b>b. 独創性・優位性</b>	国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。
<b>c. 目標・計画</b>	実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画（研究データの管理・利活用、および計算資源の利用も含む）が具体的かつ適切であること。
<b>d. 実施体制</b>	提案内容の遂行に最適な実施体制を構築していること。
<b>e. 遂行能力</b>	提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。

### <補 足>

1. 選考基準と合わせて、公募要領「2.3 提案書作成に際しての留意事項」に記載の内容も選考で考慮されます。
2. 研究開発課題の構成は、上記の基本方針等に沿って本事業全体で最適化を図るため、本事業として求める研究課題構成に合致するかも採択の観点の一つとなります。
3. 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」にあたるかどうか、選考の要素となります。詳細につきましては、公募要領「5.3 不合理な重複・過度の集中に対する措置」をご確認ください。

# 提案様式と応募・選考の流れ

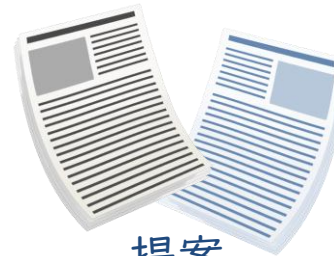
共同提案



提案例：  
AI研究者（黒：国内大学）、  
ドメイン研究者（青：国内他大学）、  
海外機関研究者（黄）との共同提案

## 研究内容に関する様式

**JST共通様式1~8、別紙1**  
基本事項、構想、提案の独創性・優位性  
目標・実施計画、予算計画、  
実施体制（全体、各グループ）  
研究・活動実績、  
他制度状況（国内、海外ともに）等



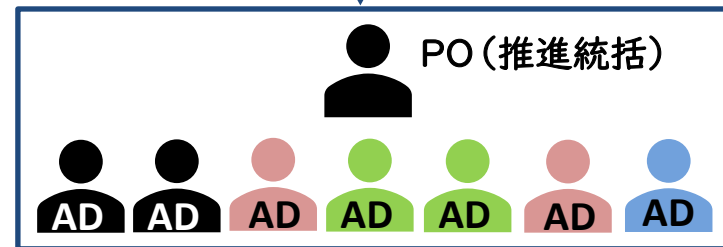
提案

## 計算資源利用に関する様式

**提案様式別紙2**  
必要な計算資源量及び概算（ワークロード票も含む）  
実現可能性の根拠（過去の実績を含む）  
プラットフォーム別内訳  
実施計画・体制 等



書類選考  
↓  
面接選考



理研AI4Sマシン（仮）  
を利用する場合



理研関係者による  
計画の実現可能性確認  
確認結果の  
PO/ADへの提示（助言）

採択

不採択

研究セキュリティ確保への対応

## 研究データの取り扱い

AI for Scienceの推進において、**高品質な研究データの継続的な創出・利活用システムの構築とともに、研究データの効率的な利活用のためにAI時代に即した次世代情報基盤を構築し、研究データの一体的な運用を図ることが重要です。**

- マテリアル先端リサーチインフラ(ARIM)、生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS)、大学共同利用機関法人や共同利用・共同研究拠点、特定先端大型研究施設など、**先行する分野ごとの取組とも連携し、我が国全体として研究データを一元的に集約し、見える化を推進することとしています。**
- **提案時点で研究開発課題毎にデータマネジメントプラン(DMP)※を策定し、審査の際にその妥当性等について確認を行います。**
- マテリアル分野に係る研究開発課題において生み出されたデータ、AIモデル、AIエージェント、ツール等については、NIMSデータ中核拠点(MDPF)へ登録することを原則必須とします。
- 他の分野においても、**各分野・ドメインの特性に応じたデータ基盤(プラットフォーム)や、我が国の中核的プラットフォームである「研究データ基盤システム(NII Research Data Cloud)」の利活用を推奨します。**

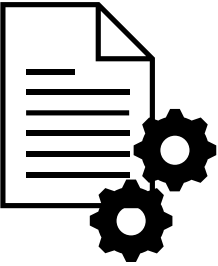
※ DMPは研究成果として生じた研究データの保存・管理、公開・非公開、公開範囲等に関する方針や計画について記載いただくものです。共同代表者等は、研究の目的に応じてDMPを作成し、それに基づいて、研究データを適切に保存・管理、公開してください。なお、むやみな研究データの公開を推奨しているものではありません。機密保持や研究者の権利保護、個人のプライバシーなど、さまざまな観点から、適切な研究データの管理・公開方針を検討してください。なお、DMPに記載する内容については、公募要領「5.21 オープンサイエンスの促進について」をご確認ください。

# データマネジメントプランの作成について

本事業では、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」※1および「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」※2に基づき、各研究開発課題における研究データの適切な管理・利活用を推進します。

特に、国際連携・産学連携を推進する観点から、国際的な貢献と国益の双方を考慮したオープン・アンド・クローズ戦略に基づくデータ管理・利活用を重視します。このため、**提案時には研究データのオープン・アンド・クローズ戦略を提案様式4-1に、データマネジメントプラン(DMP)を別紙1に記載してください。**

## 【別紙1(DMP)の作成のポイント】

- 
- 別紙1にて、「AI for Science の推進における AI 利活用に係る研究データの取扱いに関する考え方」及び機関等における研究データポリシー等を踏まえ、研究活動により成果として生じる研究データの保存・管理等に関する方針や計画を記載した「研究データマネジメントプラン及びチェックリスト」を策定してください。
  - なお、DMPでは、個別の研究データ毎に管理・保存等の方針を入力いただきますが、提案時点で決まっていない項目については「未定」と記入いただき、研究の進展に応じ、追記・更新してください。

※1 [「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」](#)

※2 [「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」](#)

## 研究セキュリティの確保

- 「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」(令和7年12月内閣府研究セキュリティと研究インテグリティの確保に関する有識者会議)<sup>※1</sup>においては、**我が国の経済安全保障上の要請に応えるのみならず、G7各国やその他の同志国と相互の信頼を構築し、引き続き、国際共同研究等を円滑に推進するために、研究セキュリティ確保が必要とされています。**
- また、**研究機関や研究者にゼロ・リスクを求めることはせず、経済安全保障上の観点及び研究現場における実効性の観点から、対象とする技術を限定し、リスクの程度に応じた合理的な対処を求めることとされています。**詳細については、内閣府の「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」<sup>※2</sup>を参照ください。
- 本事業は、**特定研究開発プログラム<sup>※3</sup>に指定**されており、研究インテグリティおよび**研究セキュリティの確保**が求められます。

※1 「研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対する研究インテグリティの確保に係る対応方針について(令和3年4月27日統合イノベーション戦略推進会議決定)」

[https://www.mext.go.jp/content/20211201-mxt\\_kagkoku-000019002\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211201-mxt_kagkoku-000019002_1.pdf)

※2 「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」(内閣府 令和7年12月)

[https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/integrity/yushikisha/guidelines\\_v1.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/integrity/yushikisha/guidelines_v1.pdf)

※3 研究成果の公開を前提とする競争的研究費のうち、「重要技術領域リスト」に該当する技術を含む可能性があるものであって、経済安全保障の観点から特に技術流出の防止が必要であるとして、当該競争的研究費を所管する府省が資金配分機関と相談の上で指定する研究開発プログラム

# e-Radによる応募について

## 府省共通研究開発管理システム (e-Rad) を通じて提案書類を提出してください。

- ※ ログインID、パスワードをお持ちでない方は研究機関の事務担当者による登録が必要です。
- ※ 共同代表者の情報も登録してください(研究開発分担者は不要です)。
- ※ 研究者・機関情報の登録には、通常2週間程度を要します。期限に余裕をもって、あらかじめ手続きを行ってください。

### ※注意点

- ① **研究タイプおよび戦略ターゲットによってe-Radの公募名が異なります。必ず応募する研究タイプおよびターゲットであることを確認してください。**

#### 提出先公募名一覧:

- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【戦略ターゲット型(T1-1)】」
- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【戦略ターゲット型(T1-2)】」
- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【戦略ターゲット型(T1-3)】」
- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【戦略ターゲット型(T2)】」
- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【戦略ターゲット型(T3)】」
- ・「AI for Science革新的研究推進事業(ARiSE)【国際・融合型】」

- ② **研究分野(主)の入力は必須です。**  
(ドメイン研究者の専門分野(AIの活用先の研究分野)を入力してください。特に、国際・融合型においては、選択された研究の内容に応じて評価者が選定される場合があります)
- ③ **合計金額が1億円以上の場合のアラートは注意喚起であり、エラーではありません。**  
(金額を確認し、問題がなければそのまま提出してください)

- 研究提案募集に関するお問合せは電子メールでお願いいたします。

## 問い合わせ専用メールアドレス

[arise.koubo@jst.go.jp](mailto:arise.koubo@jst.go.jp)

※ 選考に関するお問い合わせは受け付けておりませんので、予めご了承ください。

- 研究提案募集に関する詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jst.go.jp/program/arise/koubo.html>

### 【JST事務局】

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町  
国立研究開発法人科学技術振興機構  
研究プロジェクト推進部 推進第3グループ